
きになるあのこ

MCおもむろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

きになるあのこ

【Nコード】

N6325A

【作者名】

MCおもむろ

【あらすじ】

あの悪夢のような事件の日。その日はちょうどホワイトデーだった。鈴木少年はプレゼントを無事渡せるのか？気になるあの子ともう一度青春を味わえるのか？うーん、普通に無理でしょ（笑）

（前書き）

この作品は『はらいてえ』『かみがない』の続編です。読んでいない方は、そちらを先に読むことをお勧めします。あと、下品です（笑）

下校途中。俺はかなりへこんでいる。

なぜかって？…フツ………気になるあの子にハーフヒップ（半ケツ）を見られたからさ！

…あの子とは良いところまで行つた。夕暮れの公園で不自然な沈黙もあつた……。バレンタインデーに手作りチョコも貰つた。

そして今日。

そう、ホワイトデー。

色々考えたさ！

あの子は何か好きか？やっぱ可愛いもの？いや、ネックレスとか？いや！気持ちちがこもっていればいいんだ！

そしてセーターを買つた。

長めの。長めつていうのがポイントだ。もしかしたら

「これ、長いから一緒に巻けるねっ！」

みたいなシチュエーションにも臨機応変に対応できる。

で、当日。

女子トイレでハーフヒップ（半ケツ）。

これ犯罪でしょ？

いや、これ犯罪でしょ？

夕暮れに、一人で歩く、帰り道。

フツ…哀しい詩だな……。

叫ぶ気力さえない。何十回目かのため息をつく、白い息が舞い、そして消えていく。

俺の足は自然と思い出の公園に向かっていた。

夕日に照らされた、赤一面の幻想的な風景。

中央のベンチ。そこは、気になるあの子と日が沈みきるまで語り明かした思い出の場所だ。

そう、もう思い出なんだ。

そう思いながら、中央のベンチに目を向ける。

気になるあの子が、そこに座っていた。

俺は頭で考えるより早く、足が動いていた。

「アノコちゃん！（名前適当）」

俺の声に、アノコちゃんは俯いていた顔を上げる。

「鈴木君…」

とにかく、このチャンスを逃してはいけない！

「と…隣、いいかな？」

彼女は少し口元を緩め、小さく頷いた。

隣に腰掛けるが、何を話していいのかわからない。

まず、さっきのハーフヒップ事件か？アレの事を説明して、わかってもらえなければ話にならない。

補足だが、プリティヒップからメニメニ事件は、彼女の耳には届いていない。目撃者が友人だったのが不幸中の幸いだった。友人はこの事件を口外していない。

友人、感謝する。

でも、元を正せば、こいつがどついたからアレしてしまったのか。

友人、絞首する？

まあ、事件の弁明の後、少し世間話をして、場の空気が盛り上がった所で、自然の流れで話題をバレンタインデーに持っていく。

そして、少し間を作り、やさしくプレゼント。

カンペキだ。あとは彼女の気持ち次第。

しかし、実践しなくては机上の論理。やるしかない…やるしかないんだ……！

グルルル……

あれ？今、お腹から死神のうなり声が聞こえたようないや、気のせいだ。

それよりも……

「アノコちゃん。」

「ん…？」

「さっきの事だけ………」

そう言ったところで、彼女が俺の口をふさぐ。

「言わなくていいよ。鈴木君があれだけの事をしたんだもん。きつと何か深いワケがあるんでしょ？」

…天使。天使だ……！

「そうなんだよ！あれには不快なワケがあつたんです！」

俺が興奮して立ち上がりながら喋ると、彼女はいつものように、クスクスと笑った。

……第一関門クリア！

次は世間話を……

グリュリュリュ……

あれ？やばいかも……

これは確実に核兵器を産み落とす前の下準備の音だ。

しかし、この雰囲気で

「おいらちよつくらウンチツチしてくるわ!」
なんて言えるか?否、できるわけがない。

くっ、想定外だった…。ココは我慢するしか……。

「この前、掃除機がつまっちゃったんだ!それでね……………」

洋式がつまった…?ティッシュでも流したのだろうか。

「ヒデってすごいよね〜!あのキックの威力!どうやってら……………」

ヒデってすごい…?ヒップに対する威力…?違法改造でもしたのか?

「ビスケットの歌って知ってる?ポケットの中にはビスケットが一つ♪ポケットを叩くとビスケットが割れた♪……………」

ウオシュレットのボタン…?

ポケットの中にはウオシュレット一つってどんだけ用心深いんだ!しかも叩いたら割れたの!?

……だめだ!全部そっちの話に聞こえてしまう!

グリュリリュン…!

まずい…限界だ…………!

バレンタインデーの話をして早くプレゼントを渡してしまおう…………。

「そ…そういえば、アノコちゃんのチョコ、お…オ…おいしかったよ。」

うつ！なんだかチョコって聞くと、アレを想像してしまう……。

「本当に！？ありがとう！そういえば、友達のみっちゃんも手作りだったな。」

「へ、へえー。」

「トリュフっていうの？丸いやつ。」

ああ、便秘気味の時にでてるやつか。

「あの丸さは、職人芸だよ。」

そんなに丸かったの！？ていうか見たの！？

「一個食べてみたらすごい甘かったよ。」

食べちゃダメ！お腹こわすよ！

「あ、でも凄い硬かったよ。」

うん。それは便秘気味だからね。みっちゃんも久しぶりのお通じだったんじゃない。

キューグリュリュ……

…ダメだ！もうダメだ！

「鈴木君、大丈夫？すごい汗……。」

「アノコちゃん！バレンタインデーのお返しがあるんだ！」

「えっ？ホントに…？」

アノコちゃんは口元に両手をやり、かなり驚いている。

間なんて関係ない！早くプレゼントを！

俺はバックに手をつ込み、プレゼントを探す。しかし教科書に紛れて中々見当たらない。

早く！早く！早くウウウ！

…う…？…あ…

核兵器誕生の爆音（自己規制）

俺はバックから、セーターの入っている綺麗な包みを取り出した。

「あ、これ、セーターね。あとチョコも。形は悪いけどさ。」

「いやあああっ…！」

彼女は叫び声を上げると、公園を振り向く事無く走り去っていった。

俺はその後、公園のトイレで用を足した。

またしても紙が無く、俺はセーターで尻を拭いた。

だから長めっていったんだよ。長めを買って正解だな。うん。

……うん……。

（後書き）

3 部作、堂々完結！（？）鈴木君らしい最後でしたね。全部読んでくださった読者さん。感謝です！まだ全部見ていない読者さん。それでも感謝です！くだらない稚拙な作品に付き合っていただき、ありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6325a/>

きになるあのこ

2011年1月22日14時49分発行